

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
物理療法学		必修	1	3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
駒形 純也 他	D320	j.komagata	火曜日 9:00 ~ 11:00		
授業の目的・概要	理学療法の治療手技の一つである物理療法に関する専門基礎知識を身につけ、患者に対して物理療法を安全かつ効果的に実施する能力をつける。そのために、物理療法学では物理療法の各手技について講義し、そのメカニズムや治療効果について学ぶ。その後、少人数のグループに分かれて、実務経験のある教員の指導のもと実技実習を行い、知識・技術の定着を図る。				
学習上の助言	授業内容に関する質問は、授業中やオフィスアワーだけではなく、メール等においても受け付けている。積極的に質問して疑問を解決し、理解を深めて欲しい。				
教科書	物理療法学 編集：吉田英樹 出版社：メジカルビュー社				
参考書	物理療法学 第2版 監：松澤正, 江口勝彦 出版社：金原出版				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	物理療法手技のメカニズムについて理解し、説明できる。			PT(2), (3)	
②	疾患に対する適応・禁忌を判断し、適切な物理療法手技を選択・実施できる。			PT(2), (3)	
③	物理療法機器の作動原理を理解し、操作やメンテナンスを実行できる。			PT(2), (3)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	事前事後学習内容・必要時間 (時間)		
1 2	温熱療法①： 熱の伝達様式や種類、温熱の生理学について学ぶ。(担当：駒形)	印刷教材等での授業	教科書(pp.1~11)を読み、鎮痛について予習する。	2	
3 4	温熱療法②： 比熱、熱伝導率について学ぶ。ホットパックの使用方法を学ぶ。(担当：駒形)	印刷教材等での授業	教科書(pp.25~36)を読み、ホットパック等について予習する。	2	
5 6	温熱療法③： パラフィン浴、超短波と極超短波療法の効果、使用方法を学ぶ。(担当：駒形)	印刷教材等での授業	教科書(pp.37~53)を読み、超短波療法等について予習する。	2	
7 8	温熱療法④： 超音波の発生原理、超音波療法の効果、使用方法を学ぶ。(担当：駒形)	印刷教材等での授業	教科書(pp.56~77)を読み超音波療法について予習する。	2	
9 10	寒冷療法： 寒冷療法のメカニズムや各種手技、適応と禁忌を学ぶ。(担当：大塚)	印刷教材等での授業	教科書(pp.79~93)を読み寒冷療法について予習する。	2	
11 12	マッサージ： マッサージの手技や効果等を学ぶ。(担当：関口)	印刷教材等での授業	配布資料を読み、マッサージについて復習する。	2	

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

回	学習内容等	授業の方法	事前事後学習内容・必要時間 (時間)				
13	牽引療法： 頸椎・腰椎牽引について学ぶ。(担当：三科、駒形)	印刷教材等 での授業	教科書(pp.249～260)を読み、 牽引療法について予習する。				
14							
15	電気刺激療法： TENS、TES、FES の各種手技を学ぶ。(担当：駒形)	同時双方向 型授業	教科書(pp.159～235)を読み、 電気刺激療法について予習す る。				
16							
17	光線療法： 赤外線、レーザー、紫外線療法の効果や治療方法について学ぶ。 (担当：駒形)	同時双方向 型授業	教科書(pp.115～144)を読み、 光線療法について予習する。				
18							
19	振動刺激療法： 振動刺激療法のメカニズムや手技を学ぶ。(担当：大塚)	同時双方向 型授業	教科書(pp.262～272)を読み、 水治療法について予習する。				
20							
21	水治療法②： 水治療法のメカニズムと効果、各種手技を学ぶ。(担当：駒形)	同時双方向 型授業	教科書(pp.96～112)を読み、水 治療法について予習する。				
22	物理療法実習： 温熱療法、寒冷療法機器の操作やメンテナンス方法を習得し、各 種物理療法の実施方法について学習する。 (担当：駒形、三科、大塚)	講義・実習	1～8 回目の講義内容を復習 し、実習の準備を行う。				
23							
試	定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照						
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		50	30	0	0	20	100
総合力 指標	知識・技術力	50	0	0	0	5	55
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	5	15
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	0	10	0	0	0	10
評価のポイント					フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	学期末に定期試験を実施して評価する。定期試験では、教科書及び 配布資料の内容を基に応用問題を出題し、理解度を問う。			試験返却時に解説を行う。	
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	実技実習を通して、各種物理療法の実施手順を学ぶ。その過程にお いて、各種手技の効果について検証し、レポートを作成して、思考 力・表現力を評価する。採点基準は授業開始時提示する。			レポート返却時にフィードバ ックを行う。	
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

評価のポイント		評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
評価方法	行動目標		
成果発表	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
ポートフォリオ	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
その他	①	1～21 回目の講義時に課題を提示する。提出された課題を成績に反映する。	模範解答などの解説を全体に提示する。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		

備 考

担当教員：◎駒形 純也、三科 貴博、関口 賢人、大塚 篤也

教員の実務経験：

駒形 理学療法士（クリニックや介護保険領域を中心に勤務）
 三科 理学療法士（医療機関及び介護保険関連施設にて8年間の常勤実務経験）
 関口 理学療法士（徒手理学療法を中心に、13年の臨床経験、実務経験）
 大塚 理学療法士（急性期病院やクリニック等で勤務）

実践的授業の内容：

疾患に対する物理療法について、実務経験を活かして説明を行う。

実技授業：

22～23 回目の実技授業では、肌を露出しやすく、動きやすい服装をすること。

授業時のフィードバック、意見交換：

フィードバックは授業時間内または課題返却で実施する。
 意見交換の機会は授業時間内に実施する。

感染対策：

大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を厳守すること。問題がある場合は面接授業の参加は認めない。

遠隔授業：

Teams などを使った同時双方型授業を行う。授業時は通信容量が無制限のインターネット回線を強く推奨する。